

1 「市民が真ん中」の視点で 市民の役に立つ市役所へ

市民サービスの質を高め、市役所を市民満足度の高い超スマート自治体に体質変革します。

(1) 聖域なき財政・市民負担の総点検で、 財源捻出、財源確保

- 公約を実現するための体制づくり
- ふるさと納税の推進、クラウドファンディング[※]の導入
- エネルギーの地産地消

(2) 賢い支出で市役所の行財政改革

- 行政改革ビジョンを再点検
- 定型的な事務作業を自動化できるRPA[※]の導入

(3) ハコ物事業を含めた大規模事業を市民 の目で再点検

- わかりやすい事業計画等の公表
- 市民の意見を聴く仕組みを構築

(4) デジタル化の加速で市民サービスの向 上、超スマート自治体へ体質変革

- 島しょ部へ総合事務所を設置
- 365日相談に対応する窓口の設置
- 各種申請手続きの電子化、押印の見直し
- 市税等のキャッシュレス納付

(5) 公の施設等見直し

- 有効活用システムの導入
- 民間事業者の参入を促進し、市民に親しまれる拠点施設として再生

※クラウドファンディングとは群衆(クラウド)と資金調達(ファンディング)を組み合わせた造語

※RPAとは(ロボティック・プロセス・オートメーション)の略語で、ロボットによる業務自動化という意味

2 市民の命を守り 「商いができる」今治の実現

瀬戸内クロスポイント構想により、今治市を製造、物流、デジタル、観光の拠点にし、通過点から滞在地域に変貌させます。

地域外から「稼ぐ力」を高めるため、市長が市の広告塔になり、今治市の歴史・文化の財産、観光資源、素晴らしい工業製品・商品・農林水産物の情報発信と販路拡大に努めます。

(1) デジタル化の加速で今治の経済を 「新しい成長」へ

- 地域版総合商社の設立構想

- 魅力ある地場産品・農林水産品をトップセールスで販路拡大
- 国や造船立地自治体との連携強化
- 各種産業の人材育成への支援

(2) 島と海と陸をつなぐ魅力ある「まちづくり」、 「産業づくり」、「人づくり」の推進

- しまなみ海道通行料金の負担軽減を検討
- 大学等を核としたまちづくりの推進
- FC今治と連携したスポーツによるまちづくり

(3) 人が集まる、人が集う、文化と歴史が咲く、 「i.i.imabari」のパワーアップ

- 中心市街地のにぎわい創出(今治マルシェの開催など)
- ワークेशन[※]の受け入れを推進
- 移住・定住の促進
- 地域の魅力を再発見するマイクロツーリズム(近場観光)の推進
- サイクルシティ今治をパワーアップ

※ワークेशनとは(ワーク)仕事と(ケーション)休暇を組み合わせた造語

3 「ひとりひとり」が輝く今治を みんなで創出

(1) 女性が輝く、子どもが輝くやさしい まち“今治”

- 結婚・妊娠・出産から育児まで切れ目のない支援の充実(今治版ネウボラ[※]の創設)
- ICT(情報通信技術)を活用した学習環境の充実
- 日本一おいしい給食の提供

(2) 「健康・長寿」と障がい者にやさしい まちづくり

- 市民の健康・長寿の促進
- 高齢者支援の充実
- 障がい者に優しい地域共生社会の実現

(3) 防災・減災対策で災害に強いまち“今治”

- コロナ下での地震や豪雨災害との複合災害への備え
- 避難所施設トイレの洋式化
- 総合版防災マップの作成・配布
- 防災行政無線の運用改善、緊急告知ラジオの整備拡充

※ネウボラとはフィンランドの出産・育児支援制度のこと。日本では、この制度を参考にした妊娠期から子育て期の家族への切れ目のない総合的支援のことをいう



市民や職員らに迎えられた初登庁の様子



3月本会議で施政方針を表明する市長

施政方針は
こちらから

